

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																												
専門学校 岡山情報ビジネス学院	昭和61年7月26日	学院長 三村 光	〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																												
学校法人 三友学園	昭和61年7月26日	理事長 野津 基弘	〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																											
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	保育学科	平成12年2月8日 文部省告示	—																																											
学科の目的	子どもの心に寄り添い、成長をサポートできる保育士・幼稚園教諭をめざす。保育者としての自覚、人間形成の基礎をつくる大事な時期の子ども達に対して保育をする責任感とやりがい、また保護者や地域に方々への対応ができる人間力も養う。保育や福祉の現場に必要な知識や実践力を修得し、即戦力、可愛がられる人材育成を育成する。																																														
認定年月日	平成28年2月19日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
3年	昼間	2618	1136	1072	450	0	385																																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																										
75人	27人	0人	6人	12人	18人																																										
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～翌年3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 成績評価はS、A、B、C、Dの4段階科目 評価の方法: 終了時に試験、レポート等で評価																																											
長期休み	■夏 季:8月9日～8月27日 ■冬 季:12月24日～1月10日 ■学年末:2月5日～3月11日		卒業・進級条件	卒業要件:①必修科目及び選択必修選択科目の成績がC評価以上 ②出席率90%以上 ③卒業基準検定の取得 進級要件:①必修科目及び選択必修選択科目の成績がC評価以上 ②出席率90%以上																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、保護者面談、家庭訪問等		課外活動	(例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭、研修旅行 ■サークル活動: 有																																											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) (学) 崇主学園 みくに幼稚園, (学) 淳心学園 認定こども園 海星幼稚園, (福) みつき福祉会, (福) ももぞの学園, (福) 鶴足津福祉会 マイルドハート高円寺, (福) 弘徳学園, (福) 創幸 ■就職指導内容 担任教師とキャリアサポート室が連携し学生の進路選択のサポートを行う。併せて就職対策講座により教養・面接対策等を行う。 ■卒業生数 15 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 13 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 86.66666667 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・アルバイト (令和 4 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Excel3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>文書解読・作成能力3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>幼児体育指導者検定2級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>15人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭2種免許状</td> <td>①</td> <td>15人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 なし				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Excel3級	③	15人	14人	文書解読・作成能力3級	③	15人	11人	社会人常識マナー3級	③	15人	8人	幼児体育指導者検定2級	③	15人	14人	保育士	①	15人	14人	幼稚園教諭2種免許状	①	15人	14人												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																												
Excel3級	③	15人	14人																																												
文書解読・作成能力3級	③	15人	11人																																												
社会人常識マナー3級	③	15人	8人																																												
幼児体育指導者検定2級	③	15人	14人																																												
保育士	①	15人	14人																																												
幼稚園教諭2種免許状	①	15人	14人																																												
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和4年4月1日時点において、在学者37名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者33名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 健康上・学力不振 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期ガイダンスの実施、クラス行事・学校行事への参加、家庭との連携等		■中退率 11%																																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 OIC特別奨学金制度(本校入学者を対象に実施)、後期授業料免除制度(本校入学後、所定の条件を満たす者を対象に実施) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 専門職高等教育質保証機構 受審年月: 平成31年2月 評価結果を掲載したホームページURL: https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf																																														

当該学科の ホームページ URL	https://www.oic-ok.ac.jp
------------------------	---

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科が考える教育に関する基本方針が、今の現場が求めるニーズに合っているかどうかを確認し、その中で、足りない点において、そこを強化するための助言を編成委員の方よりいただく。また、保育の現場で通用する社会人として今の保育に関する情勢や、保護者対応、子育て支援方法を知り、今後の授業における授業内容の改善、新たな科目の開設などを行い、他の学校との差別化をはかる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

保育士・幼稚園教諭・社会福祉分野における人材育成のために、保育園・幼稚園・社会福祉分野関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて、教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラムの等の開設・改善・工夫等を行う。第1回委員会では、前期学科運営状況の報告を行い各委員より改善意見やご提案をいただき具体的な取り組み方策の検討案の提示を行う。その後、後期学科運営で検討案の実施を行い、第2回委員会にて実施状況の報告と次年度に向けた新たな教育課程の提示を行い各委員より再度意見や助言をいただき次年度の具体的な教育課程の最終案を決定し承認をいただく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
赤木 美子	一般社団法人チカク 代表理事	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
大原 正裕	社会福祉法人遍照会 遍照こども園 理事長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
土居 直美	専門学校 岡山情報ビジネス学院 保育学科 学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月26日 16:00～17:30

第2回 令和5年1月27日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

最近では、全ての感情を無条件で受け止めてもらう経験が少ない。マイナスの感情を抱えて子育てする母親を支える保育者という立場になるからこそ、座学で知識を学ぶばかりではなく、ワークショップや演習のような形で、他者と気持ちのやり取りを経験できるような授業を取り入れるとよいのではないかと。

→保育実技の科目において3年生の中で、他者の話をどう聴いたらよいかということワークショップ形式で行った。心を込めて聴いてもらった場合と全く聴いてもらえていない場合を経験することで、聴くことの重要性に気づくことができた。今後も継続していきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 「保育園指定保育士養成施設の指定及び運営の基本について」に準じた認可保育園・認定子ども園(保育所型・幼保連携型)の中で、本校の教育方針を理解していただき保育士に必要な専門知識の習得だけでなく具体的に保育現場で求められる人材育成に即した実習が体験でき、かつ岡山県保育士養成協議会において登録された保育士としての実践的な実習ができる保育園を選定している。(状況に応じて各学生の適性・希望等を総合的に判断し決定していく)

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 実習科目担当の教師が「保育士養成協議会」で出された「保育所実習の手引き」に基づく実習内容を実習前に事前に実習園と確認、調整を行い、実習内容、学生の学修成果指標等について定める。実習期間中に担当教師が実習園を訪問し、学生の実習態度、行動、状況を把握するとともに実習担当者もしくは園長と情報交換等の連携をしながら実習授業運営を行う。実習終了時には、実習園実習担当者及び園長による学生の学修成果の評価と実習日誌をふまえ、担当教員が成績評価、単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
教育実習(前期)	幼児や教師と生活を共にすることで、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、同時に教師の仕事について具体的に理解する。	学校法人大森学園つしま幼稚園、岡山市立芥子山幼稚園、学校法人杉原学園松永幼稚園、倉敷市立中島幼稚園、学校法人御国学園御国幼稚園
保育実習Ⅰ(保育所)	保育の実践を体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を養う。また、実践的に計画、実践、評価、反省を行うことで課題発見する。	社会福祉法人岡山愛育会 高島第一保育園、社会福祉法人ちとせ交友会 グリーン長利こども園、社会福祉法人中島福祉会 中島保育園、社会福祉法人若竹の園 若竹の園、岡山市平井保育園
教育実習(後期)	教育実習(前期)の振り返りを基に、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、教師の仕事について具体的に理解する。	倉敷市立旭丘幼稚園、学校法人淳心学院認定こども園海星幼稚園、総社市立総社幼稚園、学校法人みその学園岡山聖園幼稚園
保育実習Ⅰ(施設)	施設実習を通して出会う人々と直接関わりながら、援助の理論と実践に関して理解を深める。	社会福祉法人ももぞの学園、社会福祉法人南野育成園、社会福祉法人弘徳学園ひゅうまん、社会福祉法人P.P.P.、社会福祉法人みその児童福祉会岡山聖園子供の家
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰの反省を踏まえ、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を習得する。	社会福祉法人真光福祉会東雲保育園、社会福祉法人経山会第二太陽保育園、社会福祉法人松園福祉会八幡保育園、矢掛町立中川保育園、社会福祉法人林田福祉会林田保育園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 保育実習委員会研修
期間: 令和4年11月24日
連携企業等: 岡山県保育士養成協議会
対象: 土居直美
内容: 岡山には数多くの保育士養成校があり、保育士の資質向上や質の高い現場実習を行うために養成校同士の共通理解、実習の調整などを図る必要があるため保育士養成協議会という組織があり、本校も所属している。今回の研修では、各養成校で実習における授業方法や、運営の仕方など、意見交換を行う。よりよい実習を行うため、また質の高い保育士を育成するため、実習における問題点や改善点などを養成校の中で共有し、協議を重ねていく研修である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アセスメントと評価活動の実践～専門学校用の教材等を用いた設問の作り方～
期間: 令和4年10月6日(木) 13:00～17:00
連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会
対象: 専門学校教師
内容: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、学習者の学修成果を適切にアセスメントすることと、それらの情報を含めて教育活動を適切に評価することが必須となり、実際に各教員が現場で使用しているテスト問題等を題材として、ブラッシュアップしていくことで実践的な評価手法を体系的に学ぶ研修である。

研修名: 学習評価講座
期間: 令和5年1月12日(木) 13:00～17:00
連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会
対象: 専門学校教師
内容: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、学習評価に関する基礎知識を習得し、その必要性・重要性を知ることが目的の研修である。

研修名: 若者の「社会化」を支える専門学校
期間: 令和5年2月15日(水) 13:00～15:30
連携企業等: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会
対象: 専門学校教師
内容: 一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、学習評価をする上で、在校生を含め若者たちの世界観を知り、どう対応をしたらいいのか、評価基準について等、高校生の現状を含めて専門学校の位置づけや使命についての知識を深めることを目的とした研修である。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	保育実習委員会研修	連携企業等:	岡山県保育士養成協議会
期間:	令和5年10月	対象:	教職員
内容:	岡山には数多くの保育士養成校があり、保育士の資質向上や質の高い現場実習を行うために養成校同士の共通理解、実習の調整などを図る必要があるため保育士養成協議会という組織があり、本校も所属している。今回の研修では、各養成校で実習における授業方法や、運営の仕方など、意見交換を行う。よりよい実習を行うため、また質の高い保育士を育成するため、実習における問題点や改善点などを養成校の中で共有し、協議を重ねていく研修である。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ICT活用研修	連携企業等:	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和5年8月予定	対象:	専門学校教師
内容:	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、ICTを活用して、授業の効率化と学びの質向上を図ることを目的とした研修である。		

研修名:	学習評価 応用編	連携企業等:	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和5年12月予定	対象:	専門学校教師
内容:	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、昨年度受講した学習評価に関する基礎知識の応用編の研修である。		

研修名:	休退学防止に向けて心理学的対応について	連携企業等:	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和6年3月予定	対象:	専門学校教師
内容:	一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、今専門学校でも問題となっている退学者の増加について退学者を防止するにあたり、心理学的な対応方法を教師が修得することを目的とした研修である。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	現在はありません

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
守井 照久	税理士法人創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 VX事業部 開発部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生・ 企業等委員
石崎 公生	株式会社アドボックスフォトグラフィ 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	PTA
山本 涉	医療法人和香会 倉敷スイートホスピタル 運営企画室 室長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
豊田 東	岡山国際ホテル 総支配人	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
佐藤 新之助	株式会社イトン イートンちどり保育園 取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 総務戦略本部 本部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
北牧 涼輔	株式会社ペンギンファクトリー 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
浦谷 友章	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
畑 嘉昭	株式会社トスコ 専務取締役	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等 委員
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務課長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: URL:https://oic-ok.ac.jp/assets/document/about/info/02--new.pdf

公表時期: 令和4年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報)
(2) 各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラ
(3) 教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	現在はありません
(11) その他	現在はありません

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.oic-ok.ac.jp/>

公表時期: 令和4年6月1日

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネス実務 I	就職活動のプロセスの理解を深め、具体的な行動を起こせるよう自主性を身につける。	1前期	47	3	△	○		○		○		
2	○			健康科学	「健康」の概念・運動の効果・原則などについて知識や関心を高め、スポーツ活動・生涯スポーツの重要性について理解する。	1後期	15	1	○			○			○	
3	○			生涯スポーツ	バレーボールやバドミントンなどの技能の向上を目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的・社会的背景について理解を深める。	1後期	45	1	△		○		○		○	
4	○			情報処理入門 I	エクセル基礎を学び、簡単なワークシートの作成とデータ入力を行えるようにする。表計算・ビジネス図表に関する基礎を身につける。	1通年	30	2	△	○		○		○		
5	○			日本国憲法	憲法とは何か（憲法の意味・近代憲法の原則・憲法規範の特質・現代憲法への展開）、日本国憲法全体の主要事項の内容を理解する。	1後期	30	2	○			○		○		
6	○			幼児と音楽表現	音楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、音楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。感性を育む音楽鑑賞をする。	1後期	15	1		○	△	○			○	
7	○			教育心理学	教育現場で必要となりうる心理学の基本概念と基礎知識を学ぶ。子どもの経験と学習の過程を理解する。	1前期	15	1	○			○			○	
8	○			幼児の心理学	幼児の発達にかかわる心理学の基礎を習得し、発達を捉える視点を理解する。教育や発達に即した援助の基本となる幼児への理解をする。	1前期	15	1	○			○		○		
9	○			健康（指導法）	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それらにかかわる環境についての理解を深める。	1前期	15	1	○			○		○	○	
10	○			人間関係（指導法）	子どもの人間関係の形成を援助し、促進するための知識を学ぶ。自立心を育て、人と関わる力を養うことについての基礎を習得する。	1前期	15	1	○			○			○	
11	○			教育原理	教育の本質や目的、関連する法令や行政についての基本的理解を養う。また、指導要録や学級経営の方法や意義について考察ができるようになる。	1前期	30	2	○			○		○		
12	○			造形表現（指導法）	授業では幼児の造形の発達理論と幼児に適した実践的な造形表現の研究を基に、作品制作ができるようになる。（コラージュなど）	1後期	15	1	○		△	○			○	

13	○		音楽表現 (指導法)	この授業では、領域「表現」の主に「音楽表現」の分野における、子どもの発達と発達段階に応じた「あそび」について理解するとともに、保育者に必要な柔軟性に富んだ発想力・表現力を身につける。	1 前期	15	1		○		○		○
14	○		環境 (指導法)	子どもにとっての人的・物的環境、自然環境などがどのようなものか、また子どもの興味・関心を促し環境構成の在り方を学ぶ。	1 後期	15	1	○	△		○		○
15	○		言葉 (指導法)	経験したことや考えたことなどを表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を身につける。	1 後期	15	1	○			○		○
16	○		児童文化	児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握させ、実践的な児童文化の理解者としての力を身につける。	1 前期	30	2	○			○		○
17	○		幼児と言葉	子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇などの児童文化財に親しむ体験を理解する。子どもの経験や様々な表現活動を児童文化財等と結びつけ、子どもの生活と遊びが豊かに展開するための技術を習得する。	1 後期	15	1	○			○		○
18	○		幼児と人間関係	子どもの「人とかかわる力」を育てることの重要性と、領域「人間関係」に基づく幼稚園・保育所の役割を理解する。領域「人間関係」に関するねらいと内容に関する専門的知識を身につける。	1 後期	15	1	○			○		○
19	○		幼児と環境	領域「環境」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身につける。	1 後期	15	1	○			○		○
20	○		社会福祉	社会福祉の概念や歴史、生活問題、わが国の政策動向の変化と支援をめぐる今日的課題、社会福祉政策等、社会福祉全般の関わりを学ぶ。	1 前期	30	2	○			○		○
21	○		保育原理	保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を習得する。	1 前期	30	2	○			○		○
22	○		社会的養護 I	養護の歴史、また児童福祉法改正後の児童養護のあり方、問題点に焦点をあて、家庭養護と社会的養護との相互関連を身につける。	1 後期	30	2	○			○		○
23	○		劇あそび (指導法)	子どもの持つ豊かな感性や表現する力を引き出すための指導力・援助法を体得する事を目標とし、創造性を豊かに表現することを身につける。	1 後期	15	1		○	△	○		○
24	○		教育課程総論	教育課程の意義とその編成、指導計画の作成について理解する。	1 前期	30	2	○			○		○
25	○		教育方法論	保育者として必要な保育指導の本質を学び、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に基づきながら、指導のねらいや指導の方法などの知識を身につける。	1 後期	30	2	○			○		○
26	○		教職概論	昨今の様々な教育（保育）課題について理解を深め、いま求められる教師（指導者）像について考えることができる。	1 後期	30	2	○			○		○
27	○		保育内容総論	保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容を理解するとともに、保育の全体的な全体構造を理解する。	1 後期	15	1	○			○		○

46	○	世界事情	グローバル化の時代、将来国内外問わず、外国人とともに仕事をするを念頭に、テーマ別国際事情の講義とグループワークやディスカッションを通して、国際的視野を身につける。	2後期	15	1		○	○	○								
47	○	ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付ける。	2後期	15	1	○	△	○									
48	○	ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形（行書体も含む）を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2後期	15	1	△	○	○									
49	○	ビジネス実務Ⅲ	実社会で求められる挨拶や立ち居振る舞い等を実践も踏まえて習得する。	2前期	46	3	△	○	○	○								
50	○	英会話Ⅰ	英語の基礎的な単語、文法を学び、会話にすぐ使える基本的な構文を覚え、実際の会話に取り入れることで、英語表現力を身につける。	2前期	30	2	○	△	○	○								
51	○	音楽表現技術	音楽の基本と、読譜力をつけることを主とし、する。ピアノ、音楽などに必要な音楽理論の基礎を学習する。	2後期	15	1		○	△	○								
52	○	幼児と造形表現	造形・色彩研究・デザインなどの学習を通して、幼児への造形教育に必要とされる基礎的な理論・技法・表現法を習得する。	2後期	15	1	△	○	○									
53	○	幼児と健康	乳幼児期の心身の発育発達を具体的に捉え、幼児期の「基本運動」を中心とした運動経験の重要性について理解する。	2後期	15	1	△	○	○									
54	○	子ども家庭福祉	子どものいる家庭の問題を概観し、権利擁護や子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した福祉施策を通して、児童家庭福祉の現状を理解する。	2前期	30	2	○		○	○								
55	○	社会的養護Ⅱ	社会的養護における子どもの権利擁護や児童福祉専門職の倫理について学習する。	2前期	15	1	○		○	○								
56	○	子ども家庭支援論	保育所のもつ子育て支援を重要な社会的役割として理解する。家族の変容と子どもを取り巻く社会環境をみつめ、適切な相談、助言のあり方を学ぶ。	2前期	15	1	○		○	○								
57	○	幼児への特別な支援	障害児保育の歴史と理念について学び、障害についての理解を深めていく。保育現場でそれぞれの障害を抱えた子どもや子どもの保護者をどのように支援していく必要があるかを学習する。	2前期	15	1	○		○	○								
58	○	障害児保育	様々な子どもの障害について理解し、養育者や保育者とのかかわりを学習する。	2前期	15	1	△	○	○	○								
59	○	子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。	2前期	30	2	△	○	○	○								
60	○	子どもの保健	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学習する。	2通年	30	2	○		○	○								
61	○	多文化共生保育	異文化理解に必要な基本的な概念について学習し、外国の文化や考え方について幼児期から親しみをもつための工夫や環境構成について理解できる。	2通年	30	2	○	△	○	○								
62	○	保育の心理学	子どもの発達を理解し、子どもが人との相互的にかかわりで成長していくことを学習する。	2後期	30	2	○		○	○								

63	○		教育相談	教育相談の意義と原則について学び、保護者支援の基本を学習する	2後期	30	2	○			○	○		
64	○		言語表現	保育者として言語表現技術指導の基礎的知識および必要な技術を身につける。	2前期	15	1	△	○		○		○	
65	○		乳児保育Ⅰ	乳児の成長・発達と発達課題、保育の内容、また実践事例を通し、保育の方法を習得する。	2前期	30	2	○			○	○		
66	○		乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅰで学んだ内容をもとに、子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、知識と技能の基礎を身につける。	2前期	15	1		○		○		○	
67		○	教育実習(前期)	幼児や教師と生活を共にすることで、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、同時に教師の仕事について具体的に理解する。	2後期	90	2				○		○	○
68	○		教育実習事前事後指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、教育実習に対する意欲や課題意識を高め、実習に必要な基礎を身につける。	2前期	15	1	△	○		○		○	
69	○		保育実習Ⅰ(保育所)	保育の実践を体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を養う。また、実践的に計画、実践、評価、反省を行うことで課題発見する。	2前期	90	2				○		○	○
70	○		保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)	保育実習(保育)の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを身につける。また実習の自己評価や総括を行い、新たな課題や目標をもつ。	2前期	15	1	△	○		○		○	
71	○		保育所実習指導Ⅱ	保育に関する基礎的な知識や技能を基盤として、これらを総合的に関連づける力と、保育実践にこれらの知識や技能を応用する力を身につける。	2前期	15	1	△	○		○		○	
72	○		音楽Ⅱ	音楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、音楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。	2通年	60	2	△			○	○		○
73	○		図画工作Ⅱ	幼児への造形教育に必要とされる基礎的な理論・技法・表現法の習得する。	2後期	15	1		○	△	○		○	
74	○		パソコン演習	就職活動に向けての自分のアピールポイントを相手に伝わりやすい形で作成できる力を身につける。	2前期	15	1	△	○		○		○	
75	○		介護概論	介護に必要な専門的知識や技術を理解、習得する。	2後期	15	2	○			○	△	○	
76	○		身体表現Ⅱ-1	音楽に合わせて体を動かすことを通してリズム感や創造力、表現力を身につける。また、オペレッタの制作を体験的に学習することで現場につながる保育者の表現力や指導力・構成力を身につける。	2前期	15	1		○	△	○		○	
77	○		身体表現Ⅱ-2	Ⅰでの学びを活かし、より実践的なオペレッタの制作を体験的に学習することで現場につながる保育者の表現力や指導力・構成力を身につける。	2後期	15	1		○	△	○		○	
78	○		ビジネス実務Ⅳ	社会人としてすぐに働くことを想定したマナー・考え方・一般常識の習得する。	2後期	35	2	△	○		○		○	
79	○		保育教養Ⅱ	保育者として、保育に関わる情勢や保護者や地域の方との関わり方等を実践を通して身につける。	2後期	15	1	○	△		○		○	

80	○		食育Ⅱ	食育Ⅰでの学びを活かし、栄養や調理方法だけでなく実践経験を通して子どもにその重要性を伝える知識、技術を深める。	2後期	15	1	○	△		○	○				
81	○		教育実習指導	教育実習を行う目的を明確にし、幼稚園教諭として必要な知識や技術、実習に臨む態度や心構えを学び、実習への基礎を身につける。	2通年	30	2	○	△		○	○				
82	○		子ども家庭支援の心理学	家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係などについて発達的に理解し、子どもとその家庭を含む現代社会の状況と課題を理解する。	2後期	30	2	○			○	○				
83	○		ビジネス実務Ⅴ	社会人としてふさわしいマナー、言葉遣いや身だしなみなど、第一線で活躍できる力を身につける。	3前期	66	4	○	△		○	○				
84	○		子育て支援	保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。	3後期	15	1	△	○		○	○				
85	○		子どもの健康と安全	身近な怪我や疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。	3後期	15	1	△	○		○	○				
86	○		青年心理学	青年期の発達課題について学び、誕生から青年期に至るまでの発達の連続性を見通した知識を習得する。	3前期	30	2	○			○	○				
87	○		保育・教職実践演習	自分自身の課題を意識し、必要に応じて自分自身の不足している知識や技能等を補う力を養う。	3後期	30	2		○		○	○				
88	○		保育者論	実習、知識、技術の学びを経て、保育観や教育観を見直し、保育者としての資質向上を目指し、自分自身の言葉で表現する力を身につける。	3通年	30	2	○			○	○				
89		○	教育実習(後期)	教育実習(前期)の振り返りを基に、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、教師の仕事について具体的に理解する。	3後期	90	2				○	○	○			○
90		○	保育実習Ⅰ(施設)	施設実習を通して出会う人々と直接関わりながら、援助の理論と実践に関して理解を深める。	3前期	90	2				○	○	○			○
91		○	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰの反省を踏まえ、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を習得する。	3前期	90	2				○	○	○			○
92	○		保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)	保育実習(施設)の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを身につける。	3前期	15	1	△	○							
93	○		保育実習事前事後指導Ⅱ	保育実習Ⅰの反省を踏まえ自己課題を明確にし、保育実践力を磨く力を養う。	3前期	15	1	△	○		○	○				
94	○		教育実習指導Ⅱ	教育実習に向けて、観察記録の作成や指導計画の立案方法、作成方法を身につける。	3通年	20	1	○	△		○	○				
95	○		プレゼンテーション技法	卒業研究・実社会において必要なプレゼンテーション技法を習得する。	3前期	30	2		○	△	○	○				
96	○		音楽Ⅲ(ピアノ)	年間課題曲を弾き歌いできるように習得する。オペレッタや劇遊びなど、音と言葉のつながりや関係を理解し楽譜を作成できる力も身につける。	3前期	30	1	△			○	○	○			
97	○		音楽Ⅲ(器楽・声楽)	合奏、合唱を通し、幼児への楽器演奏の指導方法や指揮者の技術を身につける。	3後期	30	1	△			○	○	○			

98	○		保育実技	指導案の立案、遊びの実践、制作、保護者対応等、保育に関する実技について学び、模擬保育を通して習得する。	3 通年	30	1	△		○	○	○		
99	○		卒業制作	3年間の集大成として、これまで学んできた知識、技術を統合し、保育現場で通用する表現力、企画力、実践力等を身につける。	3 通年	##	4			○	○	○		
100	○		卒業研究	各種の社会問題に対して、文献レポートを行い、討論しながら問題意識を深める力を身につける。	3 後期	55	3	△	○		○	○		
101	○		接遇演習	冠婚葬祭を始めとし、お茶の出し方、和菓子のいただき方、洋食のマナー、和食のマナー、名刺の由来について学習し、社会人としてのビジネスマナーを習得する。	3 後期	20	1	△	○		○	○		
102	○		保育教養Ⅲ	保育者として、保育に関わる情勢や保護者や地域の方との関わり方等を実践を通して身につける。	3 通年	30	2	△	○		○	○		
103		○	保育時事Ⅰ	最近の保育の情勢を踏まえ、課題を設定しレポートにまとめる力を身につける。	3 前期	40	2		○		○	○		
104		○	保育時事Ⅱ	最近の保育の情勢を踏まえ、課題を設定しレポートにまとめる力を身につける。	3 前期	40	2		○		○	○		
105		○	保育時事Ⅲ	最近の保育の情勢を踏まえ、課題を設定しレポートにまとめ、プレゼンテーションする力を身につける。	3 後期	40	2		○		○	○		
106	○		施設実習指導	人間観・保育観・福祉観を築きあげ施設の現状と役割を理解し実習で必要な基礎力を身につける。	3 前期	40	2	○	△		○	○		
107	○		ビジネス実務Ⅵ	社会人としてふさわしいマナー、言葉遣いや身だしなみなど、第一線で活躍できる力を身につける。	3 後期	35	2	○	△		○	○		
108	○		ライフデザイン学	自身のルーツを振り返り、自己・他者と対話を繰り返すことで、主体的に将来（人生（ライフ）／自己実現／生き方）を設計する力を身につける。	3 後期	15	1	△	○		○	○		
合計						93	科目	132(2618) 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法			授業期間等	
卒業要件： ①必修科目及び選択必修選択科目の成績がC評価以上 ②出席率90%以上 ③卒業基準検定の取得			1学年の学期区分	2期
履修方法： 【No.1-48】1年次履修科目 42単位(901単位時間) 37科目 【No.49-82】2年次履修科目 51単位(906単位時間) 34科目 【No.83-108】3年次履修科目 39単位(811単位時間) 22科目			1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。